小田原史談

第37号
発行所　小田原史談会
小田原市幸一丁目
郷土文化館内

北条幻庵

十一月一日市内久野中宿幻庵屋敷内において、立木望隆氏の司会によって挙行された三百七十五回御忌の墓前祭はささやかながら極めて意義深いものであり、出席者中幻庵の為人を再認識した人も少なくなかったと思う。よって当日立木氏より全員に配付された幻庵略譜を転載して、文武両道に達し、かつ小田原における文化興隆の始祖ともいうべき幻庵の遺徳を偲びたい。

（当日の状況は別項の通り）

幻庵略譜

立木望隆

北条幻庵は、伊勢新九郎長氏（北条早雲）の第三男として、明応二年（一四九三年＝四〇一年前）の秋、母の実家である駿東郡葛山の館（今の裾野町葛山）で生まれました。

幻庵の幼名を葛山三郎と称んだのはこのためですが青年から壮年時代までは伊勢菊寿丸と名乗っていました。

幻庵が二才の時、明応四年父の早雲が小田原城を攻略して、小田原に入りましたのでこれに従い、母共々小田原に来て、間もなく母は久野の館に移り、幻庵の菊寿丸は箱根権現の別当坊である金剛王院東福寺に預けられました。此所で幻庵は師の海実僧正から真言の教学を始め諸学諸芸を学びます。廿四・五才の頃伊豆田方地方の土豪の娘と結婚、そこで二人は知行地であり、夫人の生地に近い修善寺町大平、さらに久野の館などに居住しました。

三十一・二才の頃、師の海実のあとを襲って第四十世の箱根権現別当に就任しましたが、この間約十年で再び還俗し、北条三郎長綱と名乗ります。

幻庵は兄の二代氏綱亡きあと三代氏康・四代氏政・五代氏直を援け、後北条氏関東経営に邁進し、独特後北条氏文化を礎きました。五十才前後に入道して幻庵と言い、詩歌は勿論諸工芸に長じ茶をよく致しました。小田原記を抜萃してみましょう。

「伊勢の家に鞍の妙工あり、早雲幼少より嗜み給う。然れども北条の系図を請て、子息氏綱は北条なれば相伝せざるなり。幻庵出家の御身なれども天然細工に天骨を得て伝処の鞍の寸法悉く習い極め給う。これのみに限らず、弓の細工を伝へ給い、矢をはぎ弦をさし給うこと勝れたり。

其後武勇も賢くいましければ、又武家に還し奉る。又この頃は尺八を切り給うこと名誉なり、幻庵切りの尺八とて一節切りの尺八都鄙に流布し禁中よりも御所望ありけり。これによって尺八悉くはやり、小田原の若侍共皆これを弄ぶ……。

その人は世に鼓打ちの幻庵という鼓の曲はたぐいなきわざなりしとぞ……。

幻庵馬上の達人、弓は横井越前守を師として鍛錬し給い、彼の養由にも恥じ給はず」

大変な文化人であり武将だったことが想像されます。

幻庵は天正十七年十一月一日九十七才という稀にみる長寿を全うしました。

墓は久野幻庵屋敷の御霊屋がそれで、寺は伊豆修善寺町大平の宝寿山金竜院です。

幻庵略年譜

西暦	年号		事項
一四八六	文明	一八	北条氏綱生ル。七月太田道灌主人に殺さる。道灌・早雲共に五十四才。
一四八八	長亨	二	氏綱弟氏時生る。
一四九一	延徳	三	早雲伊豆に入り韮山城に拠る。五十九才。
一四九三	明応	二	幻庵生る。父早雲六十一才。
一四九五	〃	四	早雲小田原城攻略。
一五一六	永正	一三	早雲三浦氏を滅ぼす。
一五一九	〃	一六	早雲寄進状。早雲死八十八才。
一五二一	大永	一	早雲寺建立。
一五二三	〃	三	箱根権現大修造成る。
一五二四	〃	四	氏綱江戸城を取る。
一五二五	〃	五	幻庵の薬寿丸箱根権現第四十世別当就任。（私案）
一五三二	天文	一	氏綱娘崎姫吉良家に再嫁。
一五三三	〃	二	氏綱鎌倉鶴岡八幡造営。
一五三五	〃	四	別当長綱鶴岡諸人に御酒給う。氏康今川氏親の娘と結婚。
一五三八	〃	七	長綱別当退隠。幻庵と号す。
一五四一	〃	一〇	氏綱死。
一五四三	〃	一一	氏時死。
一五四五	〃	一四	宗牧来る。
一五五二	〃	二一	氏康幻庵平井城攻略。
一五五四	〃	二三	幻庵母死。善徳寺の会盟。
一五五九	永禄	二	幻庵知行五千四百四十二貫余。約六万石。
一五六二	〃	五	氏康の娘吉良へ嫁す。幻庵おぼえ書。
一五六九	〃	一二	幻庵長男、新三郎綱重死。
一五七〇	元亀	二	幻庵養子氏秀上杉謙信の又養子となる。
一五七一	〃	三	氏康死。同夫人死。
一五七四	天正	二	幻庵夫人死。
一五八九	〃	一七	十一月一日、幻庵死。
一五九〇	〃	一八	七月小田原落城。

線香代の伝説

内田武雄

芸者商売仏のたたり

花や線香で苦労する

私の子供の頃よくうたわれたうたである「室津史」に遊女の元祖〃友君〃で有名な浄運寺は洛外東知院末寺で清涼山浄運寺といい、開基は信寂上人（法然上人の弟子）本尊は阿弥陀如来をまつる遊女友君の墓がこの寺の門外にあるが、友君というのは木曾義仲の愛妾で、義仲は義経と戦うため河内で友君と別れたわけだが、その時彼女は妊娠していた「もし男子が出生せば木曾家のあとを立てよ」と言って義仲は出陣した。

彼女は浪速津から小舟で逃れ、室津に漂着した。そして男の子を生んだが育ちが悪く間もなく死んだ。しかもその直後に義仲が畠山重忠のために討ち取られたことを聞いた。彼女は悲嘆の余り自殺をこころみたが果せず、その後室津の茶屋にあって舞姫をつとめ他国人の旅情を慰めたという。彼女は非常な舞の名手であったらしく、ここを往来した武将や豪族たちは「都にても容易に見られぬ至芸なり」とか「正三位以上の人の芸にある品格を備うるもの」などと激賞し、お礼として「木曾殿へのお花代に」とか「お線香代に」と言って金銀いくばくかを置いた。

この伝説は真偽はともかくとして遊里で使う花代・線香代のいわれがこれから出たものだとしている点に興味がある。

上古の恋歌

この花の一（ひと）よのうちに百草（ももぐさ）の言（こと）ぞ隠（こも）れるおほろかにすな

これは万葉集第八巻にある歌であって、作者藤原広嗣が、恋人に桜の花の一枝を贈るとき、花に添えて与えたものと言われているがその意味は

「あなたに贈るこの桜の花片の中には、言うに言い尽くせない程の言葉を秘めておきました。そのつもりでお受け取り下さい。おろそかにお取扱いはいやですよ」と言うのでしょう。

この歌につづいて、恋人からのお返しの歌は

この花の一よのうちに百草の言持（こともち）かねて折らへけらずや

「ご親切にきれいな花を有難う。この枝はあまり沢山の意味を持たせられ、支え切れないで折られてしまいましたのね」

とでも言うのであるが、その中には「では私も折られましょうよ」と言わぬばかりの、心のはずんだ喜びの調子がほの見える。

千二百年前には、このような上品な恋が語られていたと思うと、心あたたまるほほえましさが伺われると同時に、最近の無粋なインスタント恋愛の動物性と比較して、そぞろにも古えの世が懐しい。

（佐藤春夫氏遺稿）

句歌歳時記

山本健吉選

鶏の糞（まり）の白き梢や冬の山　広瀬惟然

たんぽゝの忘れ花あり路の霜　与謝蕪村

書（ふみ）読みて楽しかりにし昨思（きぞも）へは懐（なき）掻きほぜり冬よるべなし　北原白秋

石蕗の葉につゆの流るゝ朝の日に黄の蝶醒むる花にすがりて　津田治子

鉄道記念物（六）

額田喜代春

〃善光号機関車〃

〈汽笛一声新橋を……

オールド・ファンにとっては、こよなく懐しいこのメロディーなんと素晴らしいではありませんか、幼少時代のことが脳裏に浮かんでくる、鉄道唱歌はたいていまず発車合図の汽笛から歌い始められる。これが童謡ともなると「お山の中行く汽車ポッポ」とか「汽車汽車、ポッポ、ポッポ」とリズミカルな擬音で歌われている。もちろん童謡のほうは、あのぶおっ、ぶおっ」と吐き出される通気の音でもあるわけだが、とにかく汽笛の音には、老幼どなたでも、ひきつけられずにはおられない魅力があるものです。こうした汽笛の音色も前号で述べたように、昭和五〇年頃には、蒸汽機関車と共に全く消え去ってしまうだろうと思えば、哀愁の感ひとしおという処でしょうね。

今回は昭和三四年一〇月一四日の第八七回鉄道記念日に、鉄道記念物として指定されて、交通博物館に陳列保存されている「善光号機関車」に登場願うことにする。

善光号といっても信州（長野県）の善光寺とは、なら関係がないのである。これは埼玉県川口市金山町にある寺院の名を貰ったもので、この機関車は日本の官設鉄道（国鉄になる前）が明治一四年にイギリスのマニングワールド会社で造られた機関車を輸入した同じ型の三両の機関車の一両でたまたま当時日本で一番大きかった私設鉄道の日本鉄道が、上野から高崎までの線路建設に際して、官鉄から移管されたもので、当時はまだ鉄道線路がなかったので、新橋駅から船に積んで三十間堀川を下り、浜離宮あたりから隅田川に出て大川をさかのぼって両国橋をくぐり、千住を経て川口の善光寺先で陸揚げされたもので、まず私鉄である日本鉄道の勢力範囲にはじめて、機関車が陸揚げされたのが、善光寺先である処から、土地の寺院にちなんで〃善光号〃と名付けられたのである。

この機関車は二組のシリンダーを台枠の内側に備えたサドルタンク車で、形態や構造が古典的で日本の機関車としては珍らしいもので、当時上野と新橋の間には、鉄道連絡がなかったので、日本鉄道では山手線を建設してこれを結び、鉄道資材その他を新橋工場から安全に運びたいと、明治一八年に渋谷を通って、品川と赤羽を結ぶ線路を大急ぎでこしらえたのであるが、これが現在の山手線の始まりで、途中の駅は板橋・新宿・渋谷の三駅だったのである。

箱根の雲助

雲助とは本朝俚諺に「くもすけ、東国の俗語にて宿なき者を呼ぶ。上古の土蜘蛛（つちぐも）の名より出でたり」とある。また百科辞典によると「徳川時代に各地の街道の立場にあって旅客及び荷物の運搬に従事した人足の称。箱根は最も著名であった。雲助とは浮浪の徒が多かったからの名と言い、長途を二本の足にまかせて一生を浮雲のように送るからの名とも言い、要求に巣を張って駕籠を進めたので蜘蛛助の義であるとも言う」と記されている

蜘蛛助のことを「本朝俗諺誌」には「偽者を土蜘蛛と言う、即ち強盗なり、今箱根に居るものは強盗にあらず、雲助なるべし」と言っている。雲助の多くは背なかのホリモノにすご味をきかせて旅人をゆすり、強盗を働き、女を辱め、または誘拐するなど悪事のかずかずをなし、箱根を上り下りする旅人を苦しめたものであろう。今日残忍酷薄な犯罪が各地に行なわれているが、これらの犯人は雲助の子孫ではなかろうかと思うことがしばしばある。

（箕田）

北条幻庵墓前祭

秋も深まった十一月一日は北条幻庵歿後三百七十五回忌に当るので、幻庵の末裔北条時雄氏と幻庵研究の権威者立木望隆氏が主催となって、小田原市久野中宿幻庵屋敷において午前十時より岸東泉院住職導師となり墓前祭が行なわれた。出席者は小田原史談会理事菱田長平・清水専吉郎・杉山康輔・東海俊美諸氏史談会員岩越元一郎氏等、足柄史談会代表関野惣平氏、伊豆修善寺史談会渡辺敏夫・北条武の両氏、沼津史談会北条時雄・風間岳南氏、練馬史談会橋川達郎氏、小田原市の有志近藤外巻氏、宮城野無形文化財会長松本兼太郎氏等約百名、他に小田原俳句会より会長杉山夢岸（米吉）外五十名、東京一流女人俳人原コウ女史も出張参列されて、各焼香をすませて渡辺浩風先生外一名の一節切の献奏、清水専吉郎氏の謡曲、田中良仙・夢庵宗吟両先生の献茶及び中谷商工KK社員の田宮流居合等あり、庭前には新に茶席が設けられ野天の饗応には大鍋に盛られたオデンをつっきながら互いに酒盃を重ねて快談、幻庵忌に相応しき主催側の心づくしの接待に来会者何れも満悦、午後一時より久野公民館において立木望隆氏の「幻庵と小田原文化」という演題にてかねての蘊蓄を傾けての懇切丁寧の講話を約二時間何れも熱心に聴聞、終って幻庵忌俳句会が行なわれ、夕刻六時終了後小宴を開き、幻庵の遺徳を偲びつつ、きわめて意義深い会合に楽しく散会したのが八時過ぎであった。

（M）

編集後記

▼十一月十八日井上康文先生は小田原で亡くなった娘さんの命日に墓参のためご夫妻で帰郷、私はダルマで昼食をともにしたのち、郷土文化館にご同伴、一巡の上ご夫妻は天守閣へ向われた。その節いろいろ話を伺がったなかに「福田正夫君の句碑の側には梅樹を植えることをかって話したとのこと」「白秋の短冊はあのままでは保存上よろしくないパラピンピックで一々包むようにしては」とのことなど、もっともと思うことを教えられた。

▼幻庵についての立木望隆氏の研究は至れり尽くせりで、充分多年の苦心研究のほどがうかがわれる。幻庵公もその偉大なる業績が没後三百年にいたって広く世に知れわたらねことを地下において感喜されていることであろう。

（M）

小田原信用金庫
小田原市幸1の179（電話(0465)㉒3121）
理事長　鈴木十郎

十字町支店（電話㉒5121代）
緑町支店（電話㉒5124代）
湯本町支店（電話箱根(5)5518—9）
国府津支店（電話(47)2191—2）
鴨宮支店（電話(47)2138代）

日本交通公社協定
旧本陣　古清水旅館
小田原市幸町壱丁目・宮の前
電話 ㉒0336 ㉒2216

御料理 御弁当 仕出し
東華軒
代表取締役　飯沼相三郎
小田原駅前
TEL（0465）5061～2

楽しい生活
明るい読書
八小堂
小田原駅前　TEL5388～9

神奈川県建設協会
小田原支部
小田原市網一色373
電話(0465)㉒0084
4288
4289

小田原駅前
あさひ
食堂

あなたの暮しのムードをつくる
婦人・子供の店
小田原
メリヤス
小田原市錦通り
TEL（0465）3837 3864

建築金物
家庭金物
株式会社
星崎仲吉商店
小田原市多古412番地
電話2718

酒・ビール・食料品
今井重雄商店
小田原市幸三
電話㉒2234～5

写真
イガラシ
小田原市幸3
TEL2534番

きそば
寿庵
小田原駅前
電話二八六二番

あなたの洋品店
はふや
小田原幸町
TEL2307

家庭電化で明るい暮らしを
(有)岡田電器
小田原市十字1の22
電話㉒2613，5308

有限会社 あめあるよ
代表取締役　川口浩
小田原市曽我谷津616番地
電話（0465)(47)3808番

印刷の御用命は
有限会社
鶴井印刷所
小田原市緑三ノ二七一
電話㉒四二一七

料理割烹
だるま
小田原市幸1～10
TEL㉒4128

セトモノの御用は
（陶磁器・陶管・植木鉢）
有限会社 大川商店
TEL851.3・3055

浄化槽の清掃修理
小田原市緑1の47
小田原衛生株式会社
電話㉒5861・2468番
取締役社長　鈴木浩

電気工事一式・設計・請負
販売修理
兵藤電気商会
小田原市下曽我駅前
電話国府津(47)3578番

建築用材一式
（建築御用命一切承ります）
稲葉材木店
小田原市十字1～23　電㉒5621
新玉3～751　電㉒6884

杉山康輔会計事務所
小田原市新玉2～276
電話㉒5722

☆丁寧迅速の
清水印刷株式会社
小田原市幸1ノ17
電話㉒3477番